

平成16年度宮古群島病害虫発生予報第9号(12月予報)

12月の気象予報

要素別予報

要素	気温	降水量	日照時間
予報	並～高	並	並～多

(平成16年11月26日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

地域平均の要素別「平年並」の範囲

要素	気温()	降水量(mm)	日照時間(h)
宮古群島	19.3～20.1	87.3～149.4	81.8～104.2

(平成16年11月26日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

12月の発生予報 および防除上の注意事項

向こう1ヶ月間に農作物の主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

宮古群島

1 さとうきび

コガネムシ類幼虫(アオドウガネ・ミヤコケブカアカチャコガネ)の防除対策について

- 11月上旬頃から、一部圃場で、コガネムシ類幼虫による立枯症状が見られる。
- 製糖期には、立枯症状の見られる圃場から早期に収穫する。
- 収穫後は、速やかに耕耘し、幼虫密度の低下を図る。

野その防除対策について

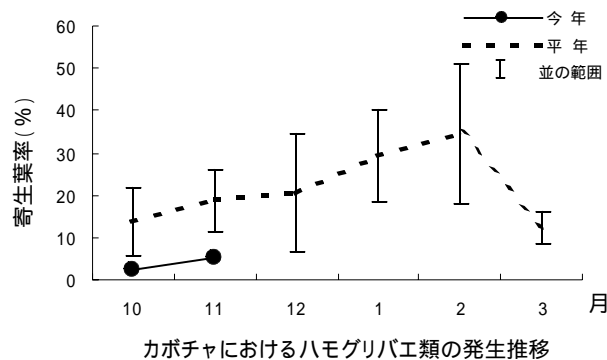
- 被害は台風で倒伏した収穫前の圃場で多くなる。
- 今後のブリックス上昇に伴い加害の増大が予想される。
- 市町村単位で航空防除が実施されたが、例年発生が多い地域では地上防除を併用する。
- 畜舎や原野等の隣接圃場では被害が多いので重点駆除する。
- はく葉等を行い、圃場の環境整備に努める。

2 かぼちゃ

(1) ハモグリバエ類

発生程度 : やや少
予報の根拠

11月下旬の調査の結果、寄生葉率は5.0%（前年14.6%、平年18.7%）と平年よりやや低かった。



防除上注意すべき事項

- ハモグリバエ類は初期防除が重要である。多発してからは防除が困難になるので、早期発見に留意する。
- 発生源となる圃場内外の雑草を除去する。

アブラムシ類の防除対策について

- アブラムシ類はかぼちゃのモザイク病を媒介するので、飛来定着を防止するため、畝間に防風対策を兼ねたソルゴーなどの障壁作物を植え付けるか、寒冷紗等の資材を利用する。
- 発生源となる圃場内外の雑草を除去する。

3 とうがん（施設）

ウイルス病の防除対策について

- とうがんのウイルス病はアブラムシ類とアザミウマ類によって伝搬される。
- 本病は汁液伝染するので、ハサミ等の消毒、洗浄を行う。
- 発病後は抜き取り処分し、やむを得ず残す場合の管理作業は最後に行う。
- アブラムシ類やアザミウマ類の施設内への飛来防止のため、ネットの補修、出入り口の2重ネット、施設周辺の除草等、耕種的防除を心がける。
- 粘着テープなどを用い、アブラムシ類やアザミウマ類の発生を確認し、早期防除に努める。

4 マンゴー

ハダニ類の防除対策について

- 11月下旬の調査の結果、ハダニ類の発生が多くの圃場で認められた。
- 硬化した葉の表に多く、被害部はかすり状になり光沢を失い、黄化・落葉する。高密度時は頂梢部にも発生し、新葉・新芽を枯死させる。
- 高温乾燥下で増加しやすいので、施設内が乾燥しないよう管理する。12月の気象予報では、気温は平年並が高く、降水量は平年並みの見込み。
- 剪定した枝葉は圃場外に持ち出し、ハダニ類の密度低下を図る。
- 発生は硬化した下葉の表に多い。薬剤は下葉にかかるよう丁寧に散布する。
- 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、同一・同系統薬剤の連用は避ける。